

## 第3章 熊谷市の概況

本章以降のグラフ・表については合併前の年においても、現在の市域の数値となっています。

# 1 位置・地形・交通

本市は、関東平野の中央、埼玉県の一部に位置し、東は行田市、鴻巣市、西は深谷市、南は東松山市、吉見町、滑川町、嵐山町、北は群馬県に接している都市です。

市域は、東西に約 14km、南北に約 20km、面積は 159.88km<sup>2</sup> であり、埼玉県内では 5 番目に広い面積となっています。東京都心までは、50～70km 圏にあります。

市域の大半が平坦な地形ですが、西部は櫛挽台地、南部は江南台地及び比企丘陵の一部となっており、畑や平地林におおわれています。また、南部は荒川、北部は利根川の日本を代表する 2 つの河川が流れ、豊かな水と肥沃な大地により自然環境が形成されています。

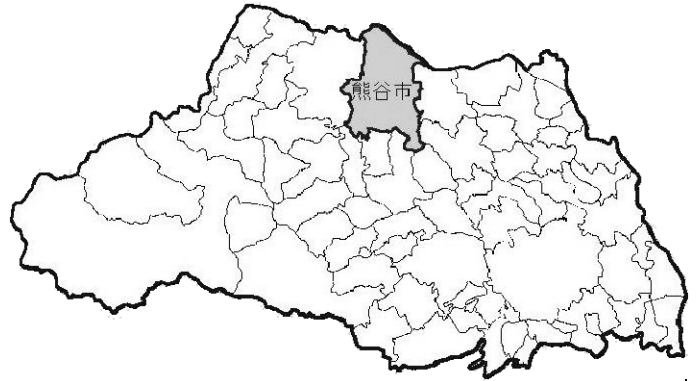
古くは江戸時代から中山道の宿場町として栄え、交通の要衝として発展してきました。現在も鉄道や幹線道路が市内を通り、広域交通網が整備され、県北地域の交通の結節点となっています。

幹線道路は、東西に国道 17 号が、南北に国道 407 号が走っているほか、国道 140 号、国道 125 号が市の中心部から分岐しており、東北自動車道、関越自動車道へとつながっています。鉄道は、JR 高崎線、上越・北陸（長野）新幹線が通り、東京駅まで約 40 分で結んでいるとともに、東は羽生、西は秩父の三峰口へと延びる秩父鉄道が通っています。

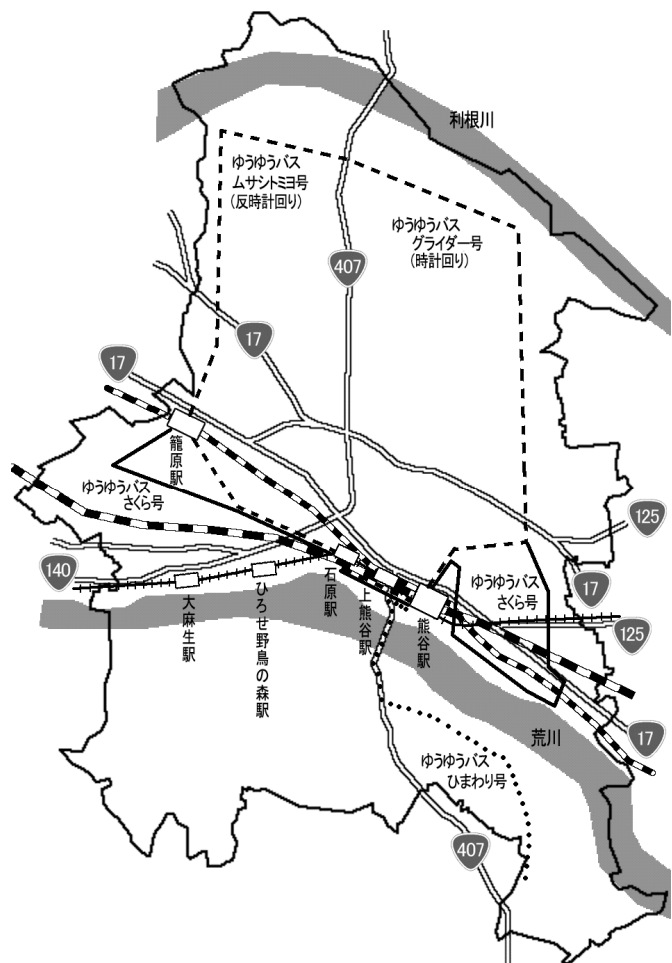
バス路線は、民間路線に加え、市のコミュニティバス「ゆうゆうバス」が 4 路線運行されています。

(出典：熊谷市環境基本計画)

■埼玉県における熊谷市の位置



■熊谷市の交通網



## 2 気候

気候は、内陸性の太平洋側気候で、夏は高温多湿で雷雨が多く、冬は低温乾燥で北西の季節風が強く晴天の日が多い。夏は暑く、冬は寒い、寒暖の差が大きい特色ある気候です。特に夏の暑さは著しく、平成 19 (2007) 年 8 月 16 日には最高気温 40.9℃を記録しました。

関東地方の暑夏は太平洋赤道西端部の海面温度が相対的高温となるラニーニャ現象に対応する北太平洋高気圧（小笠原高気圧）の著しい発達によりもたらされますが、熊谷を含む関東平野北西部が特に著しい高温域となるのは、この地域が太平洋海岸から遠いために海風循環が侵入し難いので強い日射により効率的に加熱される上に、熊谷から前橋・高崎方向（北西方向）へ伸びる利根川流域が谷状の地形を呈しているために谷風循環が発達し、北方の日光山系斜面や西方の秩父山系斜面で加熱された暖気に加えて長野県の高原状地表面で過熱された暖気までもが熊谷付近の谷口状地形の地域に断熱降下してくるためにもたらされます。この時の関東平野北西部における最高気温起時は午後 3 時～4 時を中心とする比較的午後遅くであることが特徴です。北太平洋高気圧（小笠原高気圧）の中心の位置によって関東地方の卓越風向が南西や北西になる場合には秩父山系や越後山脈越え気流によるフェーン現象が発生し、更に高温となります。こうした要因は市街地内外を問わず熊谷地方に共通の高温要因ですが、市街地内部は、ビル、工場、家庭、自動車などからの人工排熱やコンクリート、アスファルトなどの地表面物質による蓄熱効果により、郊外よりも高温となる都市ヒートアイランド現象が、気象現象による変動を示しながらも、四季を通して昼夜存在するために、更に高温となります。

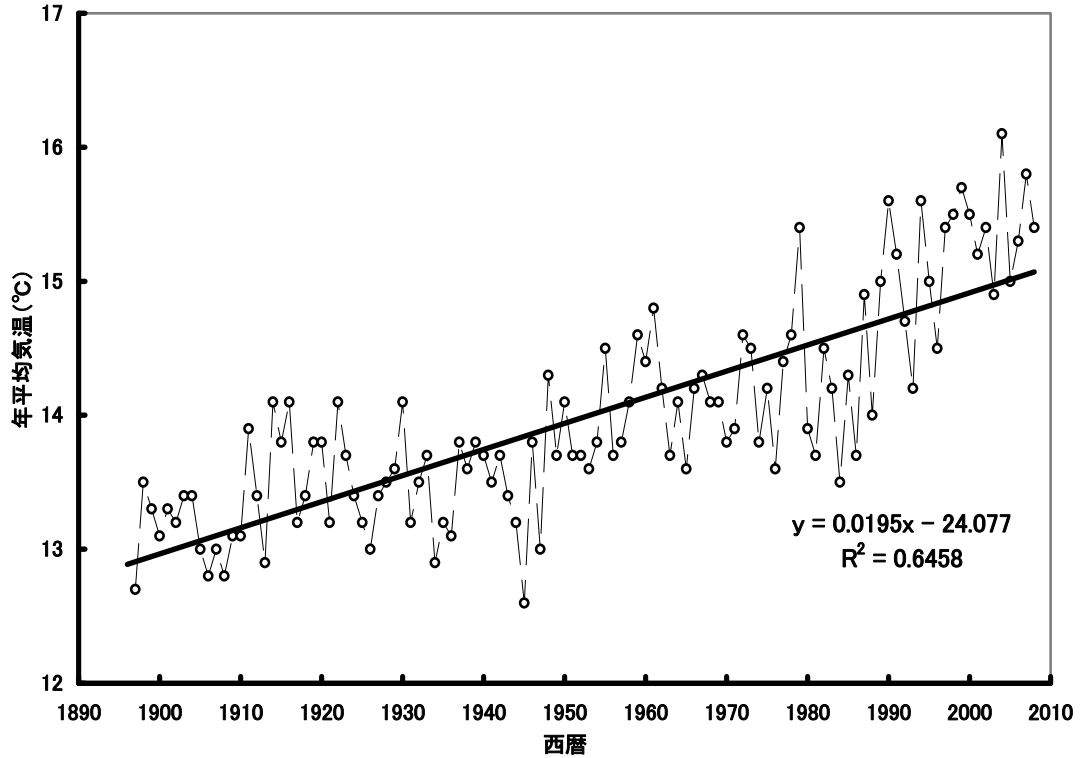
また、熊谷地方気象台が開設された 1897 年以降の年平均気温の推移をみると、大きな年々変動を伴いながら単調な気温上昇が継続しています。西暦を  $x$  とすると、年平均気温  $y$  (℃) は、

$$y = 0.0195x - 24.077 \quad (R^2 = 0.6458)$$

と表されます。ここで、 $R^2$  は決定係数と呼ばれる統計学的なパラメータであり、西暦の増加と年平均気温の増加の間の線型性の程度を表します。熊谷市の年平均気温は、100 年間で 1.95℃上昇していることが分かります。この昇温は、熊谷市街地の発達に伴う都市ヒートアイランドによる昇温も加わっているものの、地球温暖化の影響が大きいと考えられています。

日照時間については、平年 2,000 時間前後であり、全国平均、埼玉県平均と比較して長くなっています。年間の快晴日数は、平成 17 (2005) 年は全国平均の 23 日に対して、本市は 59 日で全国で最も快晴日数が多く、平成 18 (2006) 年も、40 日で全国 2 位と快晴日数に恵まれています。

■熊谷地方気象台開設以降の熊谷の年平均気温の推移



作成: 立正大学地球環境科学部教授 中川清隆

■熊谷の気候・年平均（気温・湿度・風速・日照時間・降水量）

	気温 (°C)					湿度 (%)	平均 風速 (m/s)	日照時間 (時間)	降水量 (mm)
	平均			最高	最低				
	日平均	日最高	日最低						
平成 14 年	15.4	20.8	10.9	38.4	-4.3	62	2.4	2143.2	1261.0
平成 15 年	14.9	19.8	10.7	36.7	-4.2	64	2.4	1903.0	1230.0
平成 16 年	16.1	21.7	11.4	39.2	-5.7	60	2.4	2276.0	1316.5
平成 17 年	15.0	20.4	10.5	37.2	-4.6	61	2.4	2145.4	1190.5
平成 18 年	15.3	20.1	11.3	37.5	-5.3	65	2.4	1747.7	1438.5
平成 19 年	15.8	21.1	11.3	40.9	-2.6	64	2.5	2216.9	1068.0
平均	15.4	20.7	11.0	38.3	-4.5	62.7	2.4	2072.0	1250.8

資料：熊谷地方気象台

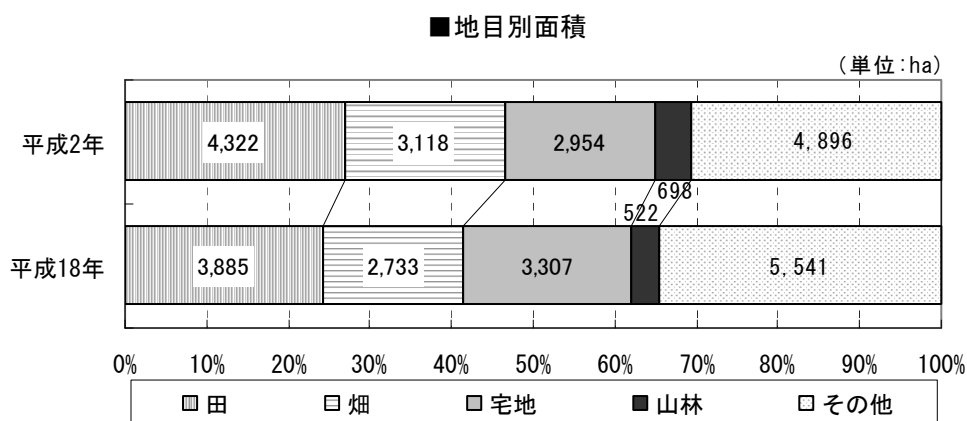
### 3 土地利用

平成 18（2006）年時点の主な地目別面積（固定資産課税台帳）は、田 3,885ha(24.3%)、畑 2,733ha(17.1%)、山林 522ha(3.3%)、宅地 3,307ha(20.7%)、その他 5,541ha(34.6%)となっています。

田、畑及び山林の合計は 7,140ha で、市域の 44.7%になりますが、農地の転用が毎年 30ha 以上行われて減少傾向にあり、一方で、宅地面積が増加しています。

平成 2(1990)年と比べてみると山林の面積は 25.2%減少し、農地も田が 10.1%、畑が 12.3%減少しました。その一方で、宅地の面積は 11.9%増加しています。

田、畑及び山林の市域全体の割合では、隣接する深谷市、行田市、鴻巣市の 50%以上に比べて若干少ないですが、山林の面積だけでみると本市が最も多くなっています。



資料：埼玉県統計年鑑（固定資産課税台帳） 平成 3(1991)年版，平成 19(2007)年版

#### ■熊谷市と近隣都市の地目別面積（平成 18(2006)年）

(単位：上段 ha、下段は総面積に対する比%)

	総面積	田・畑・山林				計	宅地	その他
		田	畑	山林				
熊谷市	15,988 (100.0)	3,885 (24.3)	2,733 (17.1)	522 (3.3)	7,140 (44.7)	3,307 (20.7)	5,541 (34.6)	
深谷市	13,758 (100.0)	1,786 (13.0)	4,941 (35.9)	448 (3.3)	7,175 (52.1)	2,997 (21.8)	3,586 (26.1)	
行田市	6,737 (100.0)	2,608 (38.7)	909 (13.5)	17 (0.2)	3,534 (52.4)	1,446 (21.5)	1,757 (26.1)	
鴻巣市	6,749 (100.0)	1,781 (26.4)	1,596 (23.6)	34 (0.5)	3,411 (50.5)	1,431 (21.2)	1,907 (28.3)	

資料：埼玉県統計年鑑（固定資産課税台帳） 平成 19(2007)年版

## 4 人口・世帯数

平成 19 (2007) 年の熊谷市の人口は 203,833 人、世帯数は 77,498 世帯となっています。県内で 9 位、県北では最多の人口となっています。

人口は平成 11 (1999) 年をピークに、その後は緩やかな減少傾向でしたが、平成 19 (2007) 年には増加に転じています。

世帯数は、平成 2 (1990) 年から平成 19 (2007) 年まで一貫して増加し続けていますが、一世帯当たり人員は平成 2 (1990) 年の 3.3 人から平成 19 (2007) 年は 2.6 人に減少しており、全国的傾向と同様に核家族化が進んでいます。

■人口と世帯数・一世帯当たり人員数

	平成 2 年	平成 3 年	平成 4 年	平成 5 年	平成 6 年	平成 7 年	平成 8 年	平成 9 年	平成 10 年
人口	196,782	199,209	200,604	201,527	202,678	203,418	203,677	204,221	205,141
世帯数	60,109	61,642	63,041	63,937	65,014	66,000	66,874	68,056	69,283
世帯員数	3.3	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.0	3.0	3.0

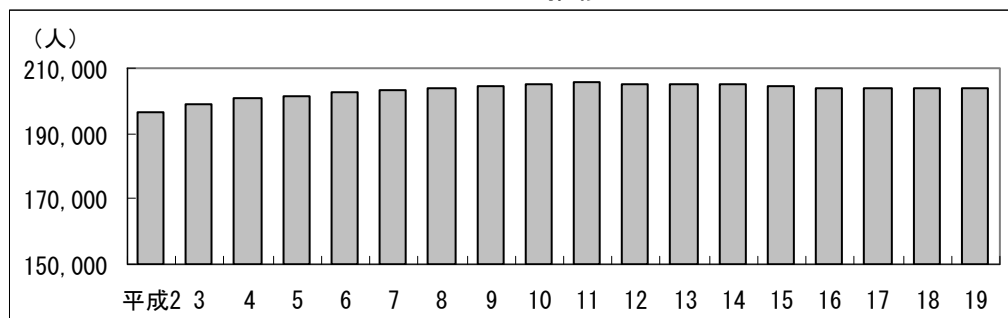
  

	平成 11 年	平成 12 年	平成 13 年	平成 14 年	平成 15 年	平成 16 年	平成 17 年	平成 18 年	平成 19 年
人口	205,510	205,326	205,097	204,838	204,418	204,015	203,677	203,581	203,833
世帯数	70,251	71,048	71,792	72,427	73,138	74,016	74,967	76,340	77,498
世帯員数	2.9	2.9	2.9	2.8	2.8	2.8	2.7	2.7	2.6

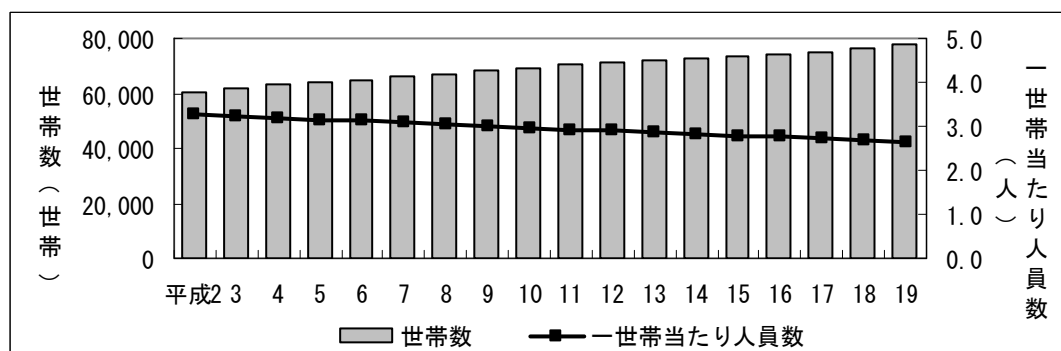
各年 3 月末現在

資料：埼玉県統計年鑑(平成 2 (1990) ～19 (2007) 年版)住民基本台帳人口

■人口の推移



■世帯数及び一世帯当たり人員数の推移



## 5 産業

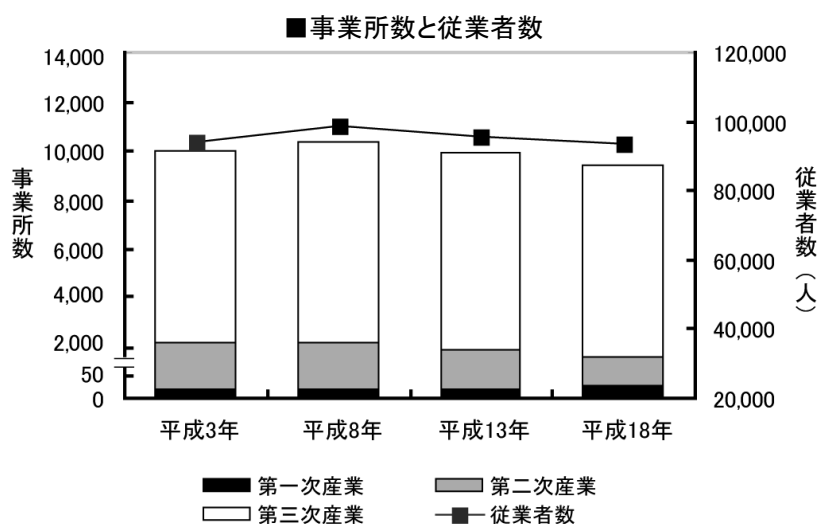
熊谷市の事業所数は、平成 8（1996）年までは増加していましたが、平成 13（2001）年には減少に転じ、平成 18（2006）年は平成 8（1996）年から 936 事業所が減少し、9,444 事業所となっています。

本市は、農業産出額は県内第 2 位、製造品出荷額等は県内 4 位、商品販売額は県内第 3 位\*と県内有数の産業都市となっています。

第一次産業は、平成 18（2006）年に事業所数が若干増加しています。

第二次産業は、平成 3（1991）年から平成 18（2006）年で事業所数が 552 事業所減少し、第三次産業は平成 8（1996）年のピークから 409 事業所減少しています。

従業者総数も平成 8（1996）年の 98,729 人をピークに減少し、平成 18（2006）年には 93,557 人となっています。



■事業所数及び従従業員数

	第一次産業		第二次産業		第三次産業		事業所数 計	従業者数 (人)
	事業所数	構成比 (%)	事業所数	構成比 (%)	事業所数	構成比 (%)		
平成 3 年	15	0.1	2,230	22.2	7,800	77.7	10,045	94,146
平成 8 年	14	0.1	2,211	21.3	8,155	78.6	10,380	98,729
平成 13 年	14	0.1	1,928	19.4	8,012	80.5	9,954	95,706
平成 18 年	20	0.2	1,678	17.8	7,746	82.0	9,444	93,557

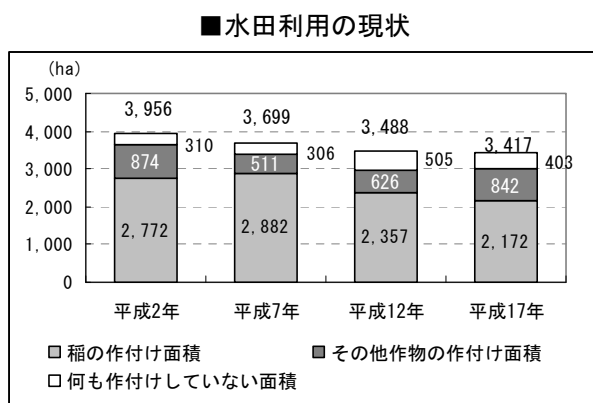
資料：事業所・企業統計

※農業産出額 平成 17(2005)年 埼玉県農林水産年報  
 商品販売額 平成 19(2007)年 商業統計調査  
 製造品出荷額等 平成 19(2007)年 工業統計調査

## (1) 農業

### 水田面積

平成 17 (2005) 年の販売を目的で水稻を作付している面積は、平成 2 (1990) 年比で 21.6% 減少しています。

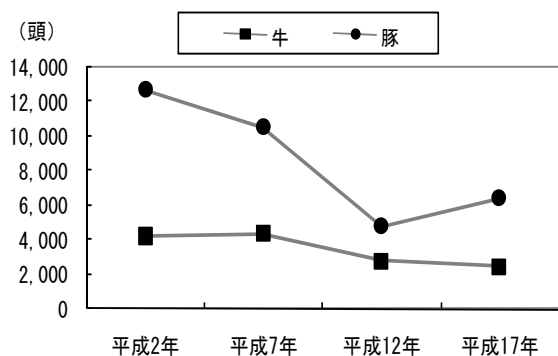


資料：農林業センサス(1990, 1995, 2000, 2005)

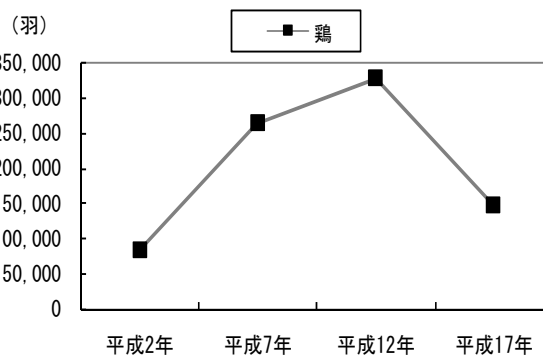
### 家畜頭数

豚は、平成 2 (1990) 年から平成 12 (2000) 年までは一貫して減少していましたが、平成 17 (2005) 年は増加しています。牛は、平成 2 (1990) 年から平成 7 (1995) 年にかけてわずかに増加しましたが、それ以降平成 17 (2005) 年まで減少傾向が続いています。鶏は、平成 2 (1990) 年から平成 12 (2000) 年まで増加を続けましたが、平成 17 (2005) 年には平成 12 (2000) 年の約 45.0% までに減少しています。

■家畜(牛・豚)の推移



■家畜(鶏)の推移



■家畜頭数の推移 (単位:頭羽)

	牛	豚	鶏
平成2年	4,226	12,726	83,500
平成7年	4,383	10,566	263,800
平成12年	2,808	4,825	326,500
平成17年	2,480	6,402	146,865

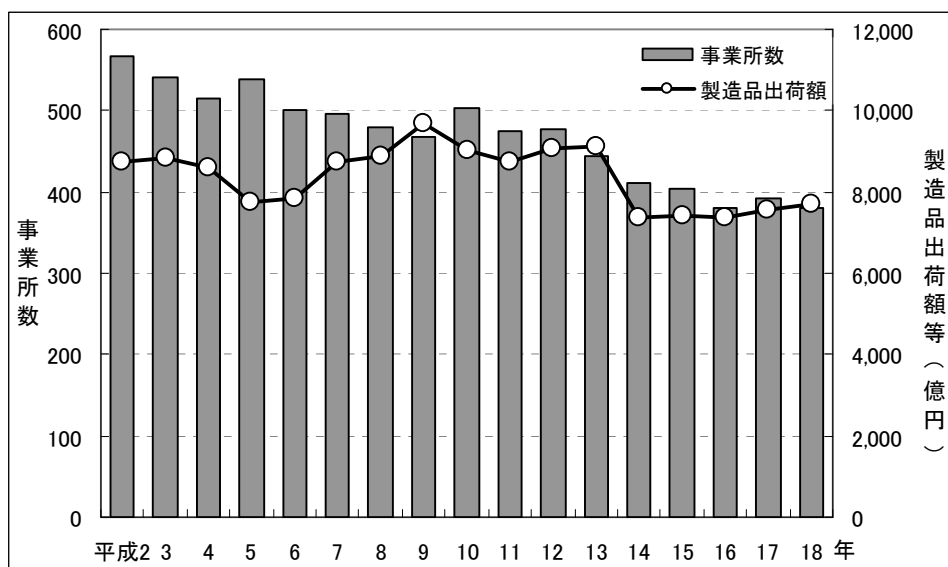
資料：農林業センサス(1990, 1995, 2000, 2005)



## (2) 製造業

熊谷市の製造業の事業所数は、平成 2（1990）年は 568 事業所でしたが、平成 18（2006）年には 381 事業所に減少しています。製造品出荷額等は、平成 9（1997）年の 9 千 6 百億円をピークに、平成 10（1998）年から平成 13（2001）年までは 9 千億円前後で推移し、平成 14（2002）年以降は 7 千億円台になっています。

■ 製造業の事業所数と製造品出荷額等



■ 製造業の事業所数と製造品出荷額等

	平成 2 年	平成 3 年	平成 4 年	平成 5 年	平成 6 年	平成 7 年	平成 8 年	平成 9 年	平成 10 年
事業所数	568	540	514	539	501	495	479	467	502
製造品出荷額等 (億円)	8,756	8,842	8,586	7,766	7,852	8,737	8,864	9,686	9,004

	平成 11 年	平成 12 年	平成 13 年	平成 14 年	平成 15 年	平成 16 年	平成 17 年	平成 18 年
事業所数	475	476	445	410	403	381	393	381
製造品出荷額等 (億円)	8,747	9,050	9,104	7,392	7,427	7,362	7,564	7,683

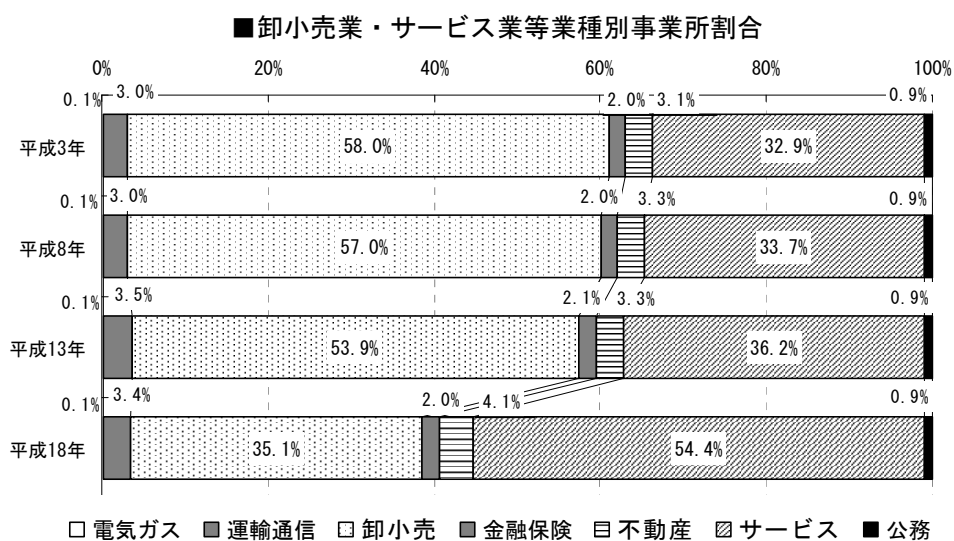
各年 12 月末現在、従業者数 4 人以上事業所が対象

資料：埼玉県統計年鑑（平成 4（1992）～19（2007）年版）、平成 18（2006）年は工業統計表市区町村編

### (3) 卸小売業・サービス業等

卸小売業・サービス業等の事業所数は、平成 8（1996）年をピークに、その後は減少に転じています。平成 18（2006）年は平成 3（1991）年とほぼ同数になっています。業種別では、平成 13（2001）年までは、卸小売業が 5 割以上を占めていましたが、平成 18（2006）年には、サービス業が 5 割以上を占め、サービス業の事業所数の増加が顕著になっています。

従業者数は、平成 18（2006）年まで増加していますが、業種別では、事業所数同様、サービス業の増加が特に顕著で、卸小売業が大きく減少しています。



■卸小売業・サービス業等業種別事業所割合・従業者数

		平成 3 年	平成 8 年	平成 13 年	平成 18 年
電気ガス 水道業	事業所数	8	9	9	10
	従業者数(人)	257	262	287	317
運輸通信業	事業所数	232	241	278	260
	従業者数(人)	5,746	6,151	6,282	6,558
卸小売業	事業所数	4,527	4,647	4,321	2,720
	従業者数(人)	28,414	30,475	30,010	20,519
金融保険業	事業所数	160	174	173	152
	従業者数(人)	3,335	3,665	2,900	2,587
不動産業	事業所数	240	269	262	320
	従業者数(人)	966	1,024	905	1,114
サービス業	事業所数	2,565	2,745	2,899	4,216
	従業者数(人)	20,121	23,746	25,109	36,409
公務	事業所数	68	70	70	68
	従業者数(人)	3,367	2,545	2,577	2,659
合 計	事業所数	7,800	8,155	8,012	7,746
	従業者数(人)	62,206	67,868	68,070	70,163

資料：事業所・企業統計調査